



<https://www.gerodontology.jp/>



日本老年歯科医学会
Facebook



日本老年歯科医学会
Twitter



本紙に掲載されている本会オンライン事業の画像は、本会理事長が撮影を許可した広報委員会によるものです。本会オンライン事業に関するコンテンツの複製、その利用等は、目的の如何および個人利用を問わず、本会理事長が許可した場合を除き一切禁止しております。



News Letter

No.55

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2024年3月31日発行

【本号のトピックス】

第35回学術大会がいよいよ6月開催! / 3学会合同でステートメントを公表
研修会・セミナー報告 / 専門医認定者の声 / 支部だより 他

第35回学術大会「人生100年時代を切り拓く～口腔の健康を通して～」 札幌にてお待ちしております! #JSG24

大会長 山崎 裕
(北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野高齢者歯科学教室)

第35回学術大会まであと2カ月ほどとなりました。おかげさまで口演・ポスターの演題が約190題と例年よりも多数頂戴しました。また、特別講演3本、教育講演1本、シンポジウム12本(うちスポンサーシンポジウム1本)、スポンサードレクチャー1本、ランチョンセミナー6本(予定)、スイーツセミナー1本の企画講演をご用意しております。会場は改装オープンしたばかりの札幌コンベンションセンターで、1階部分だけの移動ですみますので、じっくり視聴できるようになっています。学会誌38巻4号では日程が、大会ホームページには各企画の座長、演者、企画の趣旨などが掲載されていますのでご覧ください。

この時期の札幌は、カラッと爽やかな季節でこの

時期にしか味わえない旬の食材も多く、1年のなかでまさに観光・グルメのベストシーズンになっています。また日本新三大夜景の街にも選ばれ夜景も必見です。ぜひともお誘いあわせのうえ魅力あふれる札幌にお越しください!



<https://www.k-cav.com/jsg35>

オーラルフレイルに関する3学会合同ステートメントを発表しました!

本会は、日本老年医学会、日本サルコペニア・フレイル学会と合同で、2024年4月1日に「オーラルフレイルに関する3学会合同ステートメント」を公表しました。

オーラルフレイルは、口の機能の健全な状態(いわゆる『健口』)と『口の機能低下』との間にある状態です。オーラルフレイルであると、将来のフレイル、要介護認定、死亡のリスクが高いことがわかっています。オーラルフレイルは、ご自身で簡単にチェックできます。詳しくお知りになりたい方は、右記リンクおよび学会誌38巻4号またはオンライン版に掲載のステートメントをご覧ください。



<https://www.gerodontology.jp/committee/002370.shtml>



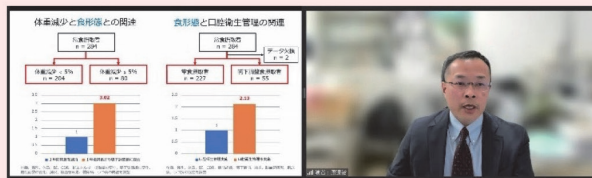
厚生労働省内で行われた記者会見の様子

オンラインLive研修会開催報告(2/2・2/15開催)

特任委員会(老健事業)委員/歯科衛生士関連委員会委員 小原由紀

2月2日(金)および15日(木)に「口腔衛生管理体制の整備に必要な口腔ケアの基礎知識」をテーマにオンラインLive研修会を開催しました。本年4月より本格実施となる介護保険施設における口腔衛生管理体制の整備を支援するために、特任委員会(老健事業)で作成している口腔ケアに関するテキストを用いて、渡邊 裕先生より口腔衛生管理の重要性について、これまでの研究により明らかとなっていることを解説いただいたほか、歯科衛生士関連委員会委員より介護職員向けの口腔ケアの基本的な手技や困難事例への対応、末永智美先生より介

護保険施設における口腔ケアの取り組みに関する事例についてご講演をいただきました。参加者は、1回目251名、2回目183名と盛会のなか終了しました。



渡邊先生による講演の一場面

オンラインLive研修会開催報告(2/28開催)

研修委員会委員 奥村拓真

2024年2月28日(水)、研修委員会主催のオンラインLive研修会を開催いたしました。

今回のセミナーでは、講師に東京都立多摩北部医療センター薬剤科主任 多田ひとみ先生をお招きし、「歯科手術に関連した抗菌化学療法の実状と高齢患者における頻用薬」と題してご講演をいただきました。

当日は計151名の参加があり、盛況のうちに終了いたしました。抗菌薬の適正使用の総論はもちろんのこと、歯科に関連した注意を払うべきポイントについてたいへんわかりやすくご講義いただきました。抗菌薬のアレルギーや相互作用、MRONJに関連する薬剤のご紹介など、薬剤にまつわる広範な知識をアップデートしていただきました。

明日からの診療でも役に立ち、なおかつ十分に注意し

ていかなければならない薬剤について学ぶ貴重な機会となりました。

なお、当日のスライド資料を多田先生のご厚意により共有いただいております。右記QRコードよりアクセスください。



多田先生による講演の一場面

オンライン歯科衛生士セミナー開催報告

歯科衛生士関連委員会委員 藤原千尋

2024年2月25日(日)、第12回歯科衛生士関連委員会主催セミナーをオンラインにて開催しました。今回のセミナーでは、講師に納棺師・歯科衛生士である大堀嘉子先生(株式会社紫恩)をお招きし、「歯科衛生士に必要なエンドオブライフ・ケアの基礎知識—納棺師・歯科衛生士の視点から—」と題してご講演をいただきました。当日は、計196名の参加があり盛況のうちに終了いたしました。

人生の最終段階において、患者の尊厳を守るために歯科衛生士がどのようにかかわることができるのか、死後に起こりうるご遺体の変化に口腔ケアが大きく影響することをわかりやすく解説いただきました。また、多くの

写真をご提示いただき、実際の口腔ケアのポイントと保湿が重要であることをお示しいただきました。

今後、緩和ケアや看取りにかかわるなかで、最期まで「口がきれい」であることの意義と生前から口腔ケアを行うことの重要性を再認識する有意義なセミナーとなりました。



有意義な講演をありがとうございました

新規 専門医認定者の声

樋口和徳先生
(愛知県・みんなの歯医者さん)

私は、開業医として外来診療や訪問診療を通じて施設や居宅で生活されている高齢者の方々の口腔健康の維持に携わっております。

開業して16年、縁あって多くの高齢者の方の歯科治療に携わることができ、歯科に関する知識のみならず全身疾患、介護制度など、高齢者に関する多くの内容を学ぶ必要性を強く感じました。そのようななか、今回の専門医試験は良い内容であり、高齢者歯科の知識を広くアップデートする良い機会でもありました。

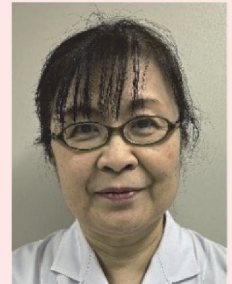
今後も老年歯科専門医として研鑽を積み、高齢者歯科医療の発展および地域医療の発展のために尽力していきたいと考えております。



原 良子先生
(東京医科歯科大学)

摂食嚥下リハビリテーション学分野)

2014年から現分野に所属し、日々嚥下障害患者と向き合っています。私は大学病院での診療のほか、高齢者施設の訪問診療や多職種会議で意見交換をしています。また、奄美大島での地域医療にも携わっており、微力ながら摂食嚥下の啓発活動を行っています。私が専門医を目指したのは、さまざまな状況下においても、高齢者に対する多様な知識と柔軟な対応力の必要性を感じたからです。症例報告は認知症や全身疾患を有する患者の評価・指導を中心にまとめました。試験は多岐にわたり曖昧だった知識が露呈する形となりましたが、知識を整理する良い機会となり、体系的な学びを得ることができました。今後はより広い視野をもって高齢者医療に貢献していく所存です。



並木千鶴先生
(東京医科歯科大学)

摂食嚥下リハビリテーション学分野)

学会に所属した際に、まずは学会発表をすることを目標にしました。ポスター発表、口頭発表を行い、その後は認定医取得を目標としました。認定医取得までもでも良かったのですが、専門医を取得されている先輩方の臨床や研究に対する専門性や情熱に感化され、私も先輩方のようにになりたいとの一心から臨床や研究を行いました。専門医取得の条件が揃っているのであれば摂食機能療法専門歯科医師、専門医取得も目指そうと思い奮闘しました。大変なこともありましたが、今までに自分が行ってきた臨床や研究を見直す良い機会ともなりました。これからも患者様やご家族様に喜んでもらえるように精進したいと思います。



須佐千明先生

(医療法人社団悠翔会在宅クリニック 歯科診療部)

私は在宅医療クリニックの歯科部門に勤務しています。歯科訪問診療では、全身管理・摂食嚥下・栄養管理・医療や介護制度の知識に加えて、多職種連携、患者さん本人やご家族との信頼関係を築く人間力など総合的な力が求められていると感じています。老年歯科専門医の筆記試験は、上記の高齢者歯科に関する幅広い知識を問われるもので、学び直しをする良い機会となりました。また症例報告作成のため、過去の症例を振り返って検証し、改めて指導を受けたことは、最も大きな学びとなりました。今後も研鑽に励み、地域医療に貢献できるよう精進したいと思います。



白野美和先生

(日本歯科大学新潟病院訪問歯科口腔ケア科)

大学の附属病院にて補綴を専門に臨床、研究、教育に携わり、2014年からは歯科訪問診療を専門に行う診療科の専属となり、老年歯科医学をより深く学ぶようになりました。そのなかで日本老年歯科医学会の専門医の取得を目標の一つとし、症例をまとめる作業は、これまでの症例への取り組みや自らの知識を確認する上でたいへん有益であったと思います。症例報告においては、歯科訪問診療を専門に行う診療科にいるため、要介護高齢者の歯科治療、食支援、多職種連携について取り組んだものが主となりました。筆記試験は、高齢者の歯科治療、摂食嚥下機能、全身疾患、加齢に伴う身体の変化、社会的背景まで広い範囲が網羅されており、改めて知識を確認する良い機会となりました。今後は、後輩の育成にも貢献できるように、指導医を目指したいと考えております。



真柄 仁先生

(新潟大学医歯学総合病院摂食嚥下機能回復部)

学生時代に有床義歯治療の奥深さを知り補綴学分野へ進学、大学院修了後には現所属に異動し、さらに摂食嚥下障害の深遠さを知り、現在にいたります。そのような背景から、認定医や専門医申請には補綴治療を含む摂食嚥下障害症例を多く報告させていただき、認定医症例の内容は英文誌 Dysphagia に掲載することができました。

多職種連携や医科歯科連携が話題の一つとなる昨今、摂食嚥下障害に携わる老年歯科専門医である歯科医師が求められるのは、原疾患の病態と特徴を理解しながら、口腔の機能低下を正しく捉え、かつその機能の改善に寄与することであると考えます。専門医としてその臨床および研究に従事、貢献し、他職種に向け発信を続ける所存です。



水谷慎介先生

(九州大学大学院歯学研究院
高齢者歯科学・全身管理歯科学分野)

専門医を目指すにあたり、認定医取得と同時に専門医のケースレポートの準備を始めました。大学病院の一診療科に所属しているだけでは症例に偏りができてしまいます。そのため、地域の歯科医院でも診療に携わり、急性期、周術期管理だけでなく、歯科訪問診療や摂食嚥下リハビリテーションなどの多岐にわたるケースレポートを作成しました。

参考にならないとは思いますが、筆記試験対策は特にしておりません。立場上、毎年の歯科医師国家試験や医師国家試験をチェックしているので、この努力(業務)が役に立ったのではないかと思います。視覚素材の問題が多かったので、『老年歯科医学』の教科書をベースに知識の整理をし、目にする機会が少ない検査や症例については、他の書籍やインターネットなどで画像や映像を確認しておくほうが良いと思います。

専門医として自覚をもち、日々の診療に取り組むなかで、次なる目標は指導医を目指すことです。これからも研鑽を進めてまいります。





藤本けい子先生
 (徳島大学大学院医歯薬学研究部
 口腔顎顔面補綴学分野)

鹿児島大学を卒業し、徳島大学病院での研修修了後から現在まで徳島大学の口腔顎顔面補綴学分野に所属しています。患者さんの多くは自身で通院している高齢者であり、比較的元気ではあるもののさまざまな全身疾患を有していることが多いため、症例報告書では全身疾患や生活習慣を踏まえて特に配慮した点について重点的に記載しました。



筆記試験は『よくわかる高齢者歯科学』を中心に勉強しました。出題範囲が広く苦戦しましたが、幅広く知識の整理ができて良かったです。実際の試験は難しく感じましたので、合格することができてほっとしております。

今後は老年歯科専門医として、日々研鑽に励みながら多職種との連携も図っていききたいと思っております。

堤 康史郎先生
 (福岡県・医療法人 福和会)

私はこれまで一般開業医に勤務し、歯科訪問診療に従事しながら高齢者歯科診療に携わってきました。今回提出した症例報告書は、処置症例だけでなく施設職員への研修や施設入居者への指導を挙げ、偏らないように意識しました。筆記試験の対策として、出題図書『老年歯科医学 第2版』(医歯薬出版)を使い試験に臨みました。



筆記試験は高齢者歯科診療に必要な知識について満遍なく出題され、自身の知識を再確認でき良い機会になりました。仕事をしながらの試験対策は大変ですが、専門医取得を考えている先生はぜひチャレンジしてください。今後は、老年歯科専門医としてさらに研鑽を重ねて指導医取得を目指し、社会貢献していく所存です。

| 支 | 部 | だ | よ | り |



2023年度 群馬支部主催研修セミナー 開催報告

群馬支部長 鎌田政善

2024年2月12日に群馬県歯科医師会館において、群馬県歯科医師会の共催と群馬県ならびに群馬県歯科衛生士会の後援により、2023年度日本老年歯科医学会群馬支部主催の研修セミナーを開催いたしました。

今回は、東京歯科大学オーラルメディスン・病院歯科学講座の主任教授である松浦信幸先生をお迎えして「高齢者の服薬からわかること—本当は怖い高血圧—」の演題で、お薬手帳の活用法や高血圧症の基礎についてと、安全な歯科医療を提供するための全身管理に関する知識と技術についてのご講演をいただきました。

連休の最終日であり、さらにコロナやインフルエンザの影響もあってか、参加者は48名とややさびしい感じでしたが、感染などの後日報告もなく無事終了することができました。



講師の松浦教授(左)と支部長

編集委員会からのお知らせとお願い

編集委員長 小野高裕

日頃より、学会誌「老年歯科医学」をご愛読いただきありがとうございます。

実は最近、「老年歯科医学」への投稿論文数が非常にさびしい状況となっております。学会誌は、最新の学術情報を会員の皆様にお届けする大切な媒体であり、特にオリジナルの研究論文や臨床論文は学会のアクティビティを示す目安として重要です。若手研究者やコメンタルの皆様の原稿も編集委員が丁寧に査読してアドバイスいたしますので、遠慮なく投稿してください。英語にはしづらい内容も歓迎です。

さらに、3つの大切なお知らせがあります！

①「老年歯科医学」優秀論文賞が新設されました！

https://www.gerodontology.jp/about/award.shtml#excellent_paper



②非会員でも論文共著者になれます！

③投稿原稿の分類に、「3）レビュー論文」や「8）レター」が追加されました！

<https://www.gerodontology.jp/publishing/rule.shtml>

皆様の投稿をお待ちしております！



第35回学術大会事前参加登録は5/29(水)までを予定しています！

トップページでもお知らせいたしました、第35回学術大会の事前参加登録締切は5月29日(水)を予定しています。皆様のご参加をぜひお待ちしております。



https://www.k-cav.com/jsg35/jsg_sanka.html



編集後記

本号では、6月28～30日に札幌で開催されます第35回学術大会(#JSG24)、「オーラルフレイルに関する3学会合同ステートメント」のご案内、オンラインLive研修会・セミナーの開催報告、専門医の先生方の声、支部だより、編集委員会のお知らせの内容をお届けいたしました。引き続き広報委員会では、会員の皆様の活動、活発な情報交流の場を提供できるよう取り組んで参ります。(貴島真佐子)

発行人 水口俊介
編集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会
事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
駒込TSビル (一財)口腔保健協会内
電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341
E-mail jsg@kokuhoken.or.jp